

## 第4回徳島市新ホール整備検討会議 議事録（要旨）

日 時：平成30年11月5日（月） 午前10時～午前11時50分

場 所：中央公民館3階 302会議室

出席者：19名（委員8名、事務局ほか）

傍聴者：3人

### 1 開会

### 2 議題

#### (1) 文化センター敷地での検討にあたって、配置プランの修正案について

##### 会長

前回の第3回の会議では、大ホール席数の議論で、他の検討項目について十分な意見を伺えていなかった部分もある。

本検討会議では、文化センター敷地を建設候補地として、整備の可能性を検討していることから、意見のまとめに入っていく前に、会議の位置づけの再確認も含め、事務局から説明をお願いするとともに、第2回会議において提示した配置プラン案について、事務局がプランの一部を修正したので、続けて説明をお願いする。

##### 事務局

資料1 ページ 資料1 文化センター敷地での検討にあたって  
資料2 ページ～ 参考 新ホール管理運営計画（抜粋）  
資料6 ページ～ 資料2 修正案1、2及び修正案の比較  
について説明

##### 会長

これらの説明について、ご意見やご質問はあるか。

##### A委員

建築コストについて、修正案1に比べ修正案2が3億円程度高くなっているのは、単純に延床面積が増えたからなのか。例えば300席増やした分は3億円増の中に含まれるのか。

##### 事務局

建築コストは、延床面積に平米単価を掛けて算出しており、延床面積が増えると高くなる。また、地下部分は地上に比べて割高なので、地下部分の面積が増えると、より高くなる。客席数を「プラスアルファ」としているのは、最低限1200席を確保し、そこからできる限り座席を増やせる分を「プラスアルファ」としている。

例えば、第2回会議で示した計画案4は、1500席で示しているので面積的には

それほど増えるものでもないと考えている。

## 会長

面積的には確保されているとのことだが、1500席を確保しようとするると他の諸室に影響が出るので、私は1500席はちょっと難しいのではないかと見ている。

## B委員

修正案2で、地下につくるリハーサル室が、発表の場としても使える可能性があるという話があったが、そのイメージをもう少し説明してほしい。

また、席数を考える時に、特にポピュラー系の公演を誘致する際に、席数はどの程度影響するか、鳴門や高松で興行をしているプロモーターの意見はどうか。

## 事務局

修正案2の地下1階のリハーサル室は、パイプ椅子を並べて200席位の公演が可能で、また簡易的なステージを備えることで、発表の場として利用できるイメージでいる。

プロモーターについては、全国一律かどうかはあるが、一般的に、公演にかかる経費を会場の席数で割って予算組みをする。そのため、席数が多いホールが利用されやすい傾向がある。

そのような興行で行われる公演は、ポピュラー系の音楽が主として行われている。例えば、アリーナやドーム規模でコンサートを行うアーティストは、そもそもホールで興行を行うことが難しい。

全国のホール主体でツアーをしているアーティストによっては、1500席がひとつのラインという人もいると聞いている。できる限り席数の多いホールを整備すると、これまで県内の他のホールで行われていた公演が移ってくる可能性もあると考えている。

## 会長

修正案2で、リハーサル室を公演発表に利用する場合だが、この案のままでは、出演者と観客の動線が、明確に分けられていないのでちょっと難しい。今後の検討で動線を分けられるかもしれないが、仲間内で行う程度の公演のイメージである。今は、大ホールのリハーサル場所としての動線で考えていると感じた。

## C委員

リハーサル室の天井高さについて、修正案1は4m、修正案2は6mで計画されている。今までの議論で、天井が高いほうがいいという意見があったが、専門家の観点からすればどうなのか。

## D委員

高さは8m程度あるといいのは間違いないが、それよりも舞台と同じ広さがという

ことが大事である。大ホールのリハーサルとして使うのであれば、最低限舞台面と同じ広さがある。仮に高さが6 mしか取れないならば、反響板等で音響を考えればなんとかできるという感じはする。

## E 委員

例えば、修正案2の場合は会議室が無いが、事業を始めるとなれば、どこかで会議室の必要性が出てくる。実際の設計になったら、求められている要件をできるだけ入れる形で修正されてくると思う。その時点で、会議室をどこかで加えることもできるだろうし、事務室の広さの中でつくることも考えられる。

## 会長

空間的には、楽屋部分の上のスペースは使えるかもしれない。高さ制限等に引っかかるのか。例えば、高さの低い練習室的なものなどを配置できるか。

## 事務局

楽屋の上にもう1層設けることは可能だと思うが、動線については検討が必要である。また、事務室の中に、20平米程度の小さな打ち合わせが可能な部屋を用意している。それ以外にも会議室の利用はあると思うので、用途にあわせて確保することを要求水準に示していくことも考えられる。いろんな意見を聞きながら盛り込んでいきたい。

## 会長

会議室ならそれほど仕様が厳しくないが、練習室となると防音など少しコストが上がるかもしれない。創造的空間として、平日の日中に使われるためには、そういう機能を備えないとせっかく人が集まっても、昼間活動出来る場所がないということになりかねない。夜間と大ホールを使っている時だけで、にぎわいが無くなってしまう。今は、大ホールなどの大きい機能が主に議論されているので、それらはぜひとも頑張って入れていってほしい。

## E 委員

公共ホールの変遷を辿ると、最初は集会施設で、次の時代に鑑賞施設になり、それから経営者重視の施設へと変わってきた。今は劇場法などの法律もでき、機能性や専門性が求められるようになった。

1500席をどう埋めるかを考えると、芸術監督、プロデューサーあるいはテクニカルディレクター、財政、資金調達、事業企画、広報マーケティング、教育普及、ワークショップデザイナーなどの専門家を擁しなければならない。ホール運営は単なる施設管理から、プロ集団による経営の時代になってきている。そういう人たちがいて、運営をしていく場所、または企画などに参画しようという市民たちを含めた場所として活動していくことを考えたら、会議室が必要になってくる。そういう取り組みをしないと1500席を埋める自主事業はできない。

## 会長

その種になるような、小さなコンサートやワークショップなどをトライしながら、大ホールでの自主事業に繋がっていくような活動をする場所がある。

## F委員

前回の会議での講演で、兵庫県立芸術文化センターの藤村氏も優先順位をはっきりと明記して、それを設計者に伝える必要があると言っていた。どちらの修正案もいい部分、訂正する部分がある。金額的な上下はあると思うが、その点をこの会議で最終的に明記できればと思う。

## A委員

小ホールは多機能に使えるとのことだが、修正案1と修正案2の大きな違いは何か。小ホールは、例えば固定席だったり、防音装置や舞台がしっかりしていれば利用が多いと思う。昼の利用を考えると、300席程度のホールは使い勝手が良い。小さなアマチュアの発表会などの利用には、特に昼間や平日の需要はあるのではないか。小ホールはある意味、施設全体の収支に貢献できるだろう。

## 会長

リハーサル室と小ホールの違いについては、公演利用するには楽屋など裏方の機能、観客動線を用意する必要がある。また、高さも必要になる。もしも小ホールがあるならば、利用頻度的には高くなるだろう。

## D委員

リハーサル室と小ホールの違いが一番大きい。小ホールよりリハーサル室が充実している方が、ホールとしての利用価値が高いと思う。舞台機能がきちんと備わっていない小ホールは、徳島市内にも周辺にもたくさんあるが、結局、中途半端な施設だけがあり、きちんとした小ホールがない。

小ホールをつくるのであれば、きちんとしたものを作ってほしいし、多目的に利用できることも、市民の利用からしたら大切な要素ではあるが、すでに市内に複数ある。

音響や舞台性能をきちんと備えた小ホールが欲しいというのはあるが、大ホールを一番メインに考えるなら、小ホールよりリハーサル室を充実させたほうがより施設の利用価値は高いと思う。

## 会長

今の計画の小ホールでは、舞台の高さ8mを備えるのは難しいかもしれない。つくるなら、きちんと舞台装置が入るような高さを確保した小ホールをつくるべきだという意見である。

## C委員

今回は、文化センター敷地で整備するという前提で話している。修正案でも日影規制もあり、きちきちいっばいに配置されている。何を整備するか意見を委員の皆さんに言っていただき、あとは市のほうでまとめて、ホールのプロの設計者に依頼するというのであれば、この会議の意見も活かされてくるのではないかと思う。

また、今の案はホワイエの位置が南だが、北にあれば春になれば桜が見える。そういったことも施設にとっては大事ではないか。

## 会長

駅方面から歩いてやってきて鉄道を渡るアクセスなど、バリアフリーの観点からもホールに来る人のアクセスも考えなければならない。ホールの計画でなくてもやれることはあるので、周辺計画もあわせて検討しなければならない。

## G委員

県の施設として1800席や2000席のホールがあれば、今の議論は要らないが、今はそれがない。

また、徳島市内に小ホール的なものが無いわけではない。小ホールを整備することで、大ホールの機能が犠牲になるならば、1200席の大ホールだけ立派なホールという評価がついたほうがいい。文化センターは1151席だったが、演歌でも何でもその席数で賄っていた。採算が取れるか取れないかはわからないが、演目が行えないということではない。チケットの売り方になるが、席数が多いからといってチケットが売れるとは限らない。そういうことを考えると、1500席ないといけないということではない。

地元が使うなら、集客面からは1200席のほうが気が楽だと思う。1500人、1800人も動員できるように、徳島の文化レベルが上がるのが理想であり、その努力も必要だが、今の段階では、1200席でも立派だと評価されるホールをつくったほうがいいのではないか。

## 会長

1500席ならばポップスが何回か来てくれるかもしれない。しかし年間50公演来るかというそれは無理と思う。そこをどう見るか。

## D委員

文化センターを長年利用してきたが、音楽ホールではないというのはよく分かっている。開館後数年して音響反射板が付けられたが、隙間が多くあったため、音が上に抜けてしまうのが大きな欠点だった。世界的なヴァイオリニストなども呼んだが、多くの演奏家からの評価は良くなかった。今度のホールにも可動の反響板が付くだろうが、音が抜けない反響板が大切な要素になる。

また、40年以上前の話になるが、空調の音がすると指摘された。その頃から、本番では空調を止めてもらうこともあった。他のホールは、そこまで空調の音が出ることはなかったので、そういった部分は気をつけてほしい。

さらに、阿波おどりの時期になると、ドアが閉まっても公園で練習している太鼓の音が聞こえてきた。徳島ならではの事情だが、しっかりと対策して素晴らしいホールを作って欲しい。

## E 委員

もともと、県立のホールがないから市がやりましょうとあって始まった計画、その気概は忘れないで欲しい。

最近のホールは1館2ホールが常識だが、文化センター敷地での整備が前提であり、小ホールが中途半端になるのであれば、小ホールは諦めてもしようがないと思う。それは別の場所で何らかの形でつくることは可能かもしれない。リハーサル室でパイプイスを並べて、小ホールの代わりに使うというのは難しい。リハーサル室にはもっと使い方があるので、この状況の中では1500席にはこだわるが、2つのホールにはこだわりは無い。

## 会長

席数はできるだけ増やしたほうがいいという意見である。

## G 委員

文化センターはステージ部分の天井が低く、客席の天井と一体になっていなかった。また、ステージ部分の天井が低いので、3階くらいで聴いていると打楽器の音ばかりが聞こえ、管や弦の音と一体になっていなかった。オーケストラの場合はステージの上の天井の高さは大事である。

## 会長

デザインや音響などは、最近のホール設計の経験のある人に関与してもらえるかどうか重要であると思う。今回は、設計者と建設者が一体化したデザインビルドのような整備手法を検討しているようなので、ホール整備の実績のある人と組んでもらう仕掛けをつくらんとことを要求していただきたい。

## B 委員

席数は別としても、質的にレベルの高いものをつくって欲しいと皆思っている。音響が良いのは当然のこと。また、兵庫県立芸術文化センターのように、木の内装、綺麗なトイレなど、こだわりのあるものをつくって欲しい。

本当は小ホールが欲しいが、何から何まで備えるのは不可能で、この敷地で建てるなら小ホールは諦めても仕方がないと思う。発表者として舞台上に立つ人と、鑑賞者では期待することも異なると思う。発表する人が増えてほしいというのはあるが、今は圧倒的に鑑賞者のほうが多い。

席数が少ないことで、鳴門にしかアーティストが行かないとなると、鑑賞者の側から見ても「せっかく徳島にホールを造ったのに」という声ができる可能性もある。やはり、1500席までいくかどうかかわからないが、1200席プラスアルファで可能な

限り多めに客席を確保したほうがいいのではないかと考えている。

## F 委員

市民は、徳島市にはホールは建たないのではないかと考えている人のほうが多いように見受けられる。なるべく早く市内のホールを整備して欲しい。

鳴門までなかなか行けない人や、徳島にアーティストを呼んでほしいと思う人も多いため、その思いを込めたホールにしていきたい。席数は1200席プラスアルファが、限りなく1500席に近くなるように考えていきたい。

利用料金の設定は、市民発表の場として利用する際の料金や1階席のみを利用するときの料金を安くすれば、使用しやすいホールになるのではないかと考えている。

## (2) 徳島市新ホール整備検討会議 これまでの意見のまとめについて

### 会長

次に、第3回検討会議までの委員の皆さんのご意見について、事務局に説明をお願いします。

### 事務局

資料10ページ～ 資料3 徳島市新ホール整備検討会議 これまでの意見のまとめについて説明

### 会長

これまでの議論を各項目について整理していただいた。

大ホールについては、先ほどもいくつかご意見をいただいた、敷地の条件もあり、まずは1200席をベースに考え、委員の皆さんのご意見にもあった、さまざま自主公演をするときの採算性やポップスなどの公演がどれくらい来るのかも含めて、できるだけ採算性を上げるという意味で、無理のない範囲で席数を増やしていく、無理をして1500席を確保して、他のバランスとの関係でいろんな機能がだめになってしまうことは皆さん避けたいと思っている。その部分は、本当のプロに席数を任せたいと考えている。

1500席近くを狙ってほしいというご意見もあったが、それを無理してやると、いろいろな問題が起きる可能性がある。この検討会議としては、1200席は最低確保し、プラスアルファでやっていただきたいということでまとめたいと考えている。

リハーサル室は必須であり、舞台と同サイズの広さと、十分な高さを確保することの2点を示すことが重要と考えている。これは数字を出すのが難しいので言葉で示したい。

楽屋は80人程度が示されている。人数については専門家の意見も聞き、オーケストラなどのことを考えても、80人程度が入れば席数には関係なく概ね大丈夫だろうとのことである。

## F 委員

楽屋については、鏡前の椅子を固定にしなければ広く使うことができ、そこで活動できることもあるし、大人数でも使える可能性がある。

## G 委員

大きな楽屋だけでなく、オーケストラの指揮者などには小楽屋がいる。まだ男女も別にしなければならないので考慮しなければいけない。

## 会長

大人数が参加するような大会など、楽屋が間に合わないときはリハーサル室を活用するなどに対応できるようにしておく必要がある。

## D 委員

オーケストラにしても合唱と一緒にしているものやオペラ、バレエなどもある。その場合は80人よりも増える可能性がある。

## G 委員

大きな大会のときは80名では間に合わない。予約時にリハーサル室も一緒に取れるようになど対応する必要がある。

## 会長

活動室や会議室など創造支援諸室は、練習室的な利用も考えて少しスペックを上げるといことも考えられるが、できるだけ空間として確保してほしい。場合によっては大空間の部屋があったほうが使い勝手がいい場合もある。室数の数字を書くのではなく、予算の範囲内でできる限り確保するというところで整理したい。

小ホールについては悩ましい。整備はしたいが、中途半端であればいけないというのが皆さんの意見に近いと感じている。中途半端な小ホールをつくるのならば他のところに金をまわしたほうが良いというのがご意見のように感じている。

## E 委員

小ホールについては、将来的に中央公民館の中で小ホールを確保できないかと考える。

## 会長

現在は、自治体で公共施設マネジメント計画を作ることになっている。それを作っただけで、計画的に整備や修繕を行ってもらいたい。その計画の宿題として、この周辺は文化的な機能が集約するゾーンとして、今後検討していくという意味でまとめのどこかに書くことができればと考えている。

交流ゾーンは、普段からオープンしている、普段から人がやってくるような小さな



カフェ機能があったらよいと思うが、需要があるかはわからない。オフィスとしては、周りに人がいる可能性があるので、そういうことも含め交流場所として活用できるようにするか、ミニコンサートなどができるような仕掛けづくりも検討していただきたい。

そういう部分にきちんとお金をかけられるかどうか、そこにお金をかけないとせっかくのホールが台無しになるので頑張っていたきたい。

また、観客や出演者の動線は出演者、スタッフ、観客の3つの動線をしっかり整理すること。

駐車場と搬入について、11tトラックは大ホールの袖に直結して搬入ができるようにしておくことをお願いしておきたい。

## E 委員

皆さん文化センターの印象があるのか、自主事業にあまり期待をかけていない気もする。これからは、大規模な発表や鑑賞の場としてのホールを考えるならば、やはり自主事業の数を増やしていく、そういう企画力を備えていくことが重要になる。広報も含め、事業について取り組んでいけるホールというのも考えていってほしい。

## 会長

この施設を運営するスタッフが重要になる。ホールができることの価値の価値は、そういうクリエイティブな方々が集まって拠点となっていく、それが重要な機能となってきた。ホールで活動する人たちを育成するということが重要になっているので、ぜひ考えていただきたいところである。

費用に関して、修正案の中では79.8億円の建設費が想定されている。もちろん、これから精査をして、お金をかけなくていい部分は経費を節減してほしい。

市は基金を作っているが（芸術文化施設建設基金）、場合によっては、市民ホールとして市民から寄付を集めることも考えてはどうか。市民が愛しんでいくため、集める額でなく活動自体が重要であり、ぜひ工夫をしていただきたい。市民が「自分のお金を出したんだ。」と思えるということ。クラウドファンディングで集めることも考えられる。それが顧客やリピーターを集めることにも繋がる。購入型クラウドファンディングなど、出資すると何回か無料で見られるとか。気運を高めるような市民活動を考えていただきたい。

ホールの建物に関しては、音響設計や特徴ある内容、徳島らしさを出すなどの指摘もあったので、専門的なデザイナー、設計者を入れることができる仕組みを考えることが重要である。

またホールの名称は、今まで「新ホール」と言ってきた。最終的な名称は市民から公募を集めることや、投票も考えられる。投票権をもらうのに寄付をすとか、盛り上がりを含め仕掛けづくりを考えていくことを意見の中に盛り込みたい。

整備手法は、早くできる方法を選びたいということであるが、契約手続きなどの様々な手続きをできるだけ時間的なロスがない形でやっていくことを考えていただきたい。今のところ、デザインビルド方式が候補になっているようだが、これにもい

くつかのやり方があるので、確認をしていただきたいが、平成35年度に向かって工期を守る設計や工事をお願いしたい。

事業の運営については、設計が決まると同時に早めに考えていただきたい。

管理運営はどういう主体に任せるのか。設計の細かいところについて、一緒に協議ができるような運営主体を早期に決めること、何らかの形で専門家を入れていくことが重要であり、方法を工夫していただきたい。

今回の検討会議の成果として、まとめるというより、多様な意見があったと意見を並べて示すことを考えている。最終的には市が決定して、実際はどう反映されるかという、発注の際の要求水準書にどう書いていくかということになる。書くからには、きちんとできるという保証もなければならない。

## A 委員

優先順位という話もあったが、自主事業やサービス、整備手法、管理運営などソフトについても重要であると感じている。ソフトにしっかり柱が立てば面白いアイデアが出てくるのではないか。ハードありきではなく、ソフトが面白い形でまとめれば、今までにない活気が出てくるのではないか。

ワクワク感や、今までとは違う楽しめるもの、いいものができるという期待が先にくると希望が持てると思う。

## 会長

優先順位をつけるのも悩ましいが、回数的にはまず市民活動の場としての役割が圧倒的にしめている。

自主事業をやるときは、いかに誇れるホールになっているかが鍵になっている。「こういう人に来てほしい」ホールだということが言えるか。それを熱意のある人たちがちゃんと集まってくるか。自主事業を始めるために、このホールをつくることは確か。ただし、1200席から1500席を埋められるような自主事業を何回くらいできるのかは、これからのトライである。それがこのホールをつくる意味になる。優先順位という議論ではないかもしれない。誇れる自主事業ができるホール、フラッグシップになるようなものやることが重要な意見である。

## E 委員

今まで若い人たちと一緒にやる事業がなかった。子どもや若者たちとベテランの文化団体の人たちと一緒に、大規模な発表会みたいなものが企画できるように持っていくのが、これからの大きなホールの役目だと思う。

## F 委員

私は子どもの頃から文化センターがあり、ホールから舞台を観るとというのが日常だった。ホールを建てるにあたり、管理運営と自主事業の2本柱でスタートできるいい機会と思う。「市民のためのホールである貸館」と「これからの将来のための自主事業」の2本柱で進めていただけるのが一番良いのではないか。

## 会長

2本柱の連携が一番難しいところである。指定管理者制度も疲弊している部分もあり、問題を起こしているのも確かである。運営者が頻繁に変わるのは困ったことになるし、単なる建物の管理者だけではなく、かなりのノウハウが必要となる運営をこなせるプロフェッショナルをどう雇用していくか工夫しないといけない。

## A委員

観客側で考えると、ロビーの活用はコンサートの前後などにも活用でき、市民にとって楽しかったりする。過去に文化センターで、あるオペラの団体が公演にあわせヨーロッパのように楽しめるようにとカフェバーのようなものを行ったことがある。そういうことが民間とできていくといい。

また自主事業に関して、プロや東京などで成功している団体は数値目標、管理目標を出して、年間売上や来館者数、興行数など、評価するための指針を作っている。徳島市自体にそれだけのノウハウがないだろうというときには、色々なプロのノウハウを入れていくことを柔軟に考える。そうしないと新しいものが生まれない。

## E委員

いま、事業単位での助成金は増えてきているが、助成金を受けて行った事業の評価は厳しくなっている。それに対し、専門的にきちんと対応できることが必要である。

## 会長

普通のホール整備よりもスケジュールが早いので、早めに運営について考えなければいけない状況になっている。早め早めに取り組んでいく必要がある。

## E委員

指定管理者制度は、経費削減や自主収入向上などの経営効率化とサービス向上が主な狙いで、理念は高いが運営自体は低いと言われている。そういうことから、自治体の文化政策のビジョンがしっかりしていないと、安易なコストカットに利用されてしまう。

## A委員

トップや名誉館長のような方に、ビジョンやイメージをきっちりもったプロの方を入れて、その人が組織を作ってやっていく新しいシステムを取り入れていってもいいと思う。

## 会長

本日の意見も入れて、副会長にも見てもらってまとめていく。まとめたものは、改めて委員の皆さんにお示しさせていただく。

### (3) 今後のスケジュールと新ホール整備検討会議との関係について

会長

次に、今後のスケジュールと新ホール整備検討会議との関係について事務局の説明をお願いします。

事務局

資料1 4 ページ 資料4 今後のスケジュールと新ホール整備検討会議との関係について説明

### (4) その他

会長

他にご意見もないようなので、議事を終了することにするが、最後に委員の皆さまにお礼を申し上げる。

大変短い期間で、密度のある議論をしていただきお礼申し上げます。

いくつかあいまいな点は残っているが、文化センター敷地での整備に、ぜひとも希望を持って、よいホールになるような形でご協力いただきたい。

皆様のご協力により、いいホールができると確信しているので、今後ともよろしくお願いしたい。

副会長

私からもひとことお礼を申し上げます。

長年検討してきたものが、やっと日の目を見ることができると、大きな期待が持てるような議論ができたと思っている。

これから、細かいこともたくさんあるだろうが、実際に設計図が出来上がってきて、いいものができることを期待している。

会長

本日の議題はすべて終了したので、進行を事務局にお返すする。

事務局

ここで遠藤市長から、この度の会議にご出席いただき、貴重なご意見を頂きました委員の皆さまにお礼を申し上げます。

遠藤市長

約1か月の短い期間に4回の会議であったが、皆さまの専門的な視点から、多岐にわたる建設的なご意見をいただき感謝申し上げます。

ご意見やご提言を踏まえ、12月議会に報告を予定している新ホールの整備方針案を策定していく。

新ホールは市民の芸術文化の創造拠点として、本市の文化振興に必要な施設であり、市内に1,000席以上規模のホールが無い状況を早期に解決し、文化振興における

空白期間をできる限り短くするため、今後においても新ホール整備に向けた取り組みにご理解とご協力を頂きたい。

### 3 閉会 事務局

以上で「第4回徳島市新ホール整備検討会議」を終了する。  
ありがとうございました。

以上